



No.26 2010. 02

news

BIZ 島田節子

400-0032 甲府市中央2-9-12

TEL/FAX 055-227-5927

biz@setuko.jp <http://www.setuko.jp>

～ 国際宝飾展 ～

政治と社会の混乱の中、開催された毎年参加の同展。主催者側の危惧感からかアジアのビジターが大勢訪れた。やはり中国人の威力がまたも繰り広げられ、プレス、バイヤーそして窃盗団までが。多くの出展者の中でもやはり私の仕事内容はユニークらしく、



、グリーンのゆがゆが水玉で明るくポップに
“夢のある仕事をしている” “いつも軸足がぶれない” “まさに今の時代の作品と仕事の仕方だ” “そんな内外の彼等の声は私にはそうだったのか” と。私はそこまで頭がまわっていない。ただお客様の気持ちを裏切りたくないのと器用に動き回る能力がないだけ。だから彼等の声はエールにも聞こえ、ちょっとだけホッとする。

～ いざ サハラへ ～

ず～っと前から砂漠に行きたいと思っていた。苛酷な旅は気力、体力がないと行けないと急遽 決心。サハラは遠かった。飛行機を乗り継ぎ、バス、四駆、ラクダ、そして最後に頼るのは自分の脚のみ。砂漠は1日に何度も表情を変える。氷のように薄青く輝き、やがてはしっとりとした濃いオレンジ色になる。月は意外と明るい。月が隠れ、陽の出る前の一瞬、漆黒の闇が訪れる。昼は暑

くて夜は着ぐるみ状態。テントのベッドは砂でザラザラ。こんなことをして迄何故来るのか。世の中に流されてもいい。その中でこうありたいと想う自分を考えていた。あの“砂漠の中の私”を思い返すと帰国した今でも涙が出る。ジュエリーは虚飾につながる。でも虚飾でない部分でも、ジュエリーの意味はある。女性はそれを捨ててはならない。危うい境界線。いつになっても輝きを持って生きたいと願うから。今回の最高のメモリアル（お土産）は砂漠の赤い砂でした。



モロッコの王様の壺廟の
ドアノブはなぜかずっと頭の

～ 癌を患って得たもの 失ったもの ～

乳ガン手術を1年前に受けた友人。いつも明るい。どれ程辛く苦しいかと恐る恐るメールをすると”元気でーす”とツルハゲの頭部の写メール。日々の大半は海外で不在の夫。抗ガン剤治療の苦しいであろう時も1人。“でも自分のことだから” “ある日ね、眼の悪い人が眼鏡をかけてキラキラ光る葉っぱが見えるように、全てが明るく美しくなるの” 限りある生命を知り、なくなった睫毛、眉毛、そして頭髪。外面的な物を失った自分を見せつけられ、物をよく見るようになり感謝で胸がいっぱいになった。One-step 上の人間になれたと思う、と。得たものはだからいっぱいいっぱいあるのよ。じゃ失ったものは？う～ん、あまりないかな。死ぬのは恐くなかった？隣にいるのは分かっていたけど恐くなかった。かつて御主人のガンの手術、入退院を繰り返し、“多分1週間くらいでお葬式”と云った別の友人。“今は彼に言われた通りにメリーウィドウしてる” そうだ。この2人、繰り言一つ聞いたことがない。彼女たちには私は勝てない。“生きる天才”と深く尊敬している。

～ブローチになるペンダント～

この頃ブローチに感心を持つ方が多いようです。ブローチ単品として使ったり、ペンダントトップを通すと合体してまた別の楽しみ方ができます。主張しすぎない上品さが気持ちをラクにしてくれそう。リングもお揃いでもあります。



K18YG/WG ダイヤ0.055ct



ペンダントをつけると
こんな感じ

玉川店 高島屋 6/12~6/15 予定

ランチパーティー (無料) 2/27 (土) 甲府 BIZ ギャラリー

春のお花畑甲府新作展 4/4 (日) ~4/10 (土) 甲府 BIZ ギャラリー

※ジュエリー雑誌 Jewelit 創刊号に BIZ お客様インタビュー記事掲載